

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401446		
法人名	有限会社 マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺北館		
所在地	名古屋市西区菊井1丁目2-4		
自己評価作成日	平成22年11月 9日	評価結果市町村受理日	平成23年 4月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2370401446&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成22年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である、人生 楽しく 自分らしく を実現する為に基本理念である、1. ノーマライゼーションの思想 2. 人権擁護とプライバシーの保護 3. 自然からの回復力を得る 4. 地域に開かれたホームづくり 5. 専門性の向上と倫理の確立 認知症高齢者が安らぎと自信の持てる場をつくり又最後までその人らしく心豊かに暮らせるホームを・・・と考えている。3、の自然からの回復力を得るという項目に於いては できるだけ本意に沿った生活を生活の中から自発的にに行っていたい。その中からその人らしいホームでの生活が見出せるものと考えている。そこには職員の介入は僅かである。職員はそれを見守り本人の自発的な行動、思いを遂げる為の支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年6月に管理者が異動により交替している。後任者は前任者の方針をベースにしながら、運営に取り組んでいる。ホームは都会の表通りに面した4階建てのビル内にあり、地域との交流がしにくい環境にある。その中でも、町内会・老人会へ加入して地区の行事に参加したり、ホームが主催するパーベキュー会に地区の代表を招待するなど、積極的に地域との交流を図っている。利用者の希望を叶える施策として、職員の見守り追跡による利用者の単独の外出や喫茶店常連者への送迎支援を実行しており、利用者本位の姿勢を随所に感じた。利用者の無断外出時における協力体制や地元子ども会との交流など、ホームが今必要としている課題を、運営推進会議において検討することを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人生楽しく自分らしくの理念のもとに、常にその人らしさとは何か？を念頭にミーティングで話し合っている。ケアプランも理念に沿ったものになるように心がけている。	代表者が法人全体で新人研修を行い、理念の共有を図るための時間を設けている。法人の理念「人生楽しく自分らしく」を、職員が自覚して介護支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を活用し、地域住民との交流を推進している。現在は10月の秋祭りなどのイベントにて地域住民と交流する場を設けている。	都会の表通りに面した商業地区に位置する施設であり、地域との交流が困難な環境にある。が、町内会・老人会・小学校等との交流を通して、地域との係わりを続ける取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところでは運営推進会議にて利用者の様子を少しずつ紹介している。今後は質問等伺い、認知症についての理解を深めたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開いて地域住民からの要望に利用者も答えうる限りの取り組みをしている。その為にも常にサービスの意義を話し合っている。	2カ月に1回の開催を目安に、地区の代表・民生委員・子供会代表・近隣代表の出席を得て開催している。ホームの活動報告・事業計画を中心議題にしており、提案意見によりホーム運営に反映した事例がある。	行政担当者の参加を促し、認知症の方が安心して暮らせる街づくりの推進を応援している。取り組みのさらなる進展を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活の実際をお伝えしている。	利用者の入退居がほとんどないこともあり、市町村担当者・地域包括支援センターとの連携事例は少ない。	ホームが地域の社会資源として、市町村との密接な関係構築を図り、さらなる発展を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が自分の身において考え、自分の事のように真剣に取り組んでおり身体拘束及び言葉による拘束にも気を配ってケアに取り組んでいる。	エレベータを利用して、利用者は各階へ自由に行き来している。利用者が不穏になり、単独外出する場合がある。職員は変装し、そつと後を追いかけて利用者の様子を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について日々徹底するよう注意を職員間で行っている。勉強については、研修に行った者の報告を聞いたり、勉強会を開いたりしているが、もっと深いものがあるのでこれからも続けてやってもらいたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに権利擁護を受けている利用者もいて、活動を見聞きできる機会があり、勉強になっている。必要な状況になれば支援してもらいたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には勿論きちんと説明をさせていただき、そのことに関する利用者や家族の疑問点について理解、納得出来る様お話を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からかなりしっかり言ってもらっているが、やはり言葉にして言えない利用者に対し、職員で報告・連絡・相談を徹底し、日常的に話し合い、ユニット会議においても話し合っている。	利用者が自発的に職員に訴える場合も多い。利用者のケアに関する職員の要望は、会議の議題に上げて検討している。運営推進会議に出席する家族から、意見を聞き検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日の中でも必要に応じて話し合っている。月2回の会議でも何でも話し合える雰囲気作り努力している。	職員各自が気がついたことを自由に書き込む「議題ノート」を作成している。これを月2回開催するユニット会議において発表し、会議出席者で検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議を毎週1回、役員会議(計画作成者含む)月1回儲け職員個々についての努力・実績・状況を把握し職員の意思に沿ったやりがい、環境、などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に情報を集め、適任な職員に研修を受けているが意欲のある職員は自分で選んで研修を受けている。その内容を会議にて報告してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の同業者間でコンソーシアムを月1回開き、勉強会・研修会をし、意見交換をしている。また交換(人材)勉強会にも取り組み、サービスの確認・質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いろいろな問題を抱えていると思われるが、まずはご自身の口から語ってもらい素直に受けとめることを第1歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至った思いを傾聴し、家族と本人との間で今後将来に向けて大切に守って行きたい事を支えていけるよう努める事をお伝えする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを本人を交え家族と話し合い、思いを言っていたき、よりよい支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で見守りを第一にしている。利用者同士のふれあいがかなりあり、その中での喜怒哀楽がとてよく出て、教えられることが多く楽しく明るいホームになっている。職員がその利用者との時間を共有できることに喜びを感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会のまれな家族があるが、月1回のたよりで本人の様子をお伝えし、本人も手紙を書いておられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の習慣である「お地藏さん参り」を同行しつづけている、美容院、喫茶、お寺さんなど継続している。	喫茶店・美容院利用、地藏・寺院参りなどの利用者の希望や馴染みの場所への訪問支援を、精力的に続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介護をするという立場に重きを置かず、まず見守りをしている。利用者同士のふれあいが多くあり、その中で職員が楽しませてもらっている。孤立しそうな利用者さんも陰ながらの声かけをする努力をし支えあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の経験がないが、他で知りえた関係の人々とは立ち話しをするくらいである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人の言葉や言葉以外の意思表示を意識して把握し、記録に残している。また、直接言葉にして表現できない場合においてもこのような本人の意思表示を敏感に受け止め、利用者本意を常に意識し把握に努めている。	入所時のアセスメントにおいて、利用者各自の思い・希望・意向の把握を行っている。日ごろの介護の中で利用者の希望・意向等の把握に努めており、利用者の意向を尊重した支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの普段の会話や行動の中や、面会、電話連絡の際などに御家族に尋ねてその人らしい生活を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活ペースを尊重した1日の過ごし方やその時々的心身状態を意識し、マイナスイメージや行動障害ばかりでなく、「できること」に着目してその方を総合的にとらえるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望・思いを尊重している。また、ユニット会議等においてスタッフからのケアのアイデアを積極的に取りいれている。それと同時に見直しも話し合い検討する。	スタッフ連絡帳、議題ノート等の職員の気付きを記載した記録がある。介護スタッフが参加するユニット会議等において記録を読み返し、皆で相談したケアのアイデアを介護計画作りに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には本人の気持ち、行動を記入する項目と職員の支援と気づきの項目を分けて記入している2週間毎のユニット会議にて情報を共有し、確認と見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ法人内のボランティアのサービスを利用したり、又は面会の困難な家族の様子を近所のボランティアの方(家族の様子を本人に伝える)面会を受け入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民政委員、近隣の方、喫茶店など触れ合いがあり協働されている。警察も行方不明者等でお世話になっている。又消防訓練でも協働を得ており豊かで安全		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があり希望とおりに受診してもらっている。納得がいくまで説明を受け、話し合っている。家族からの要望もあり説明もしている。また病院については家族が指示したいということもあり、希望に沿うように支援している。	かかりつけ医の受診は原則、家族の協力を得ている。ホームの協力医「まごころ在宅医療クリニック」の往診が月に2回あり、信頼できることや利便性を考えて、かかりつけ医に移行する利用者が増えつつある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	雑談の中でも話し合ったりして常に気遣っている。かかりつけの看護師も病院の情報等相談にのってくれたり利用者へのいろいろな方向からの支援がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院の主治医、ワーカーと家族と情報を交換している、退院後の生活を視野に入れて治療して頂き早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに至った方がおられた。本人、家族の意志により、主治医、訪問看護と連携しケアした。今後のケアの取り組みに活かしたいと考えている。	本年9月、末期癌患者であった利用者の希望で、当施設で終末期を迎えた事例があった。今後も重度化した利用者への対応として、家族・主治医・訪問介護の連携を密にした本人の望む形を受け入れる方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に研修を受けている者が居るが全ての職員は訓練を受けるに至っては居ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。避難経路の確保については職員が交代で訓練をしている。地域については運営推進会での報告に留まっているが何らかの形で参加して頂く様努めたいと考えている。	前年度の目標達成計画に設定した「地域住民参加の避難訓練」については、地域参加を呼び掛けてはいるものの、参加を得るには至らなかった。	今後も機会あるごとに、地域との協力体制を築く取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の報告・連絡・相談で心がけているし、目上の方として尊敬の念をしっかりと持ち、言葉遣いにも記録を書く上でもとても大事に慎重にしている。個人情報にも注意を十分に払うよう取り組んでいる。	職員は利用者個々の性格・個性・生活習慣を細かく把握して対応している。会話・行動の中でも、一人ひとりの人格の尊重・プライバシー保護に配慮して介護に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望等を音楽、散歩、園芸、裁縫等で引き出し、働きかけたりして見つけ、日々の暮らしの中で役立っていることに納得し、喜びを見出してもらうよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりごとなどは極力表に出さないよう努力している、散歩や買い物もその方のペースで自由に。なお、一人でという希望の方にも見守りをしたりで自由に行っていただけよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院や床屋に同行している。又、起床支援をする方は本人に服を選択をして貰う。ほかの方は本人にお任せしている。季節に添った衣替えの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考え買い物に出かけ、一緒に料理をする事を1週間に3~4回ぐらい行っている。日常的にはお好きな方(家事)には盛り付けなど一緒につくり、片付けも同様に行っている。	朝食は、パン・ご飯と用意して利用者が選ぶことができる。また、後片付け等楽しみながらできるように、配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事について、形状は個々に合わせ刻む事もある。食事量の少ない方は主治医と相談し栄養補給剤を処方して貰っている。水分は少ない方については好きな飲み物を飲んで頂いたり声掛けを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でされない方は声掛けにて口腔ケアのしえんをしている。義歯の管理のできない方は管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のプライバシーの尊厳を尊重している。それとなく声掛けしたり、さりげなく気づいて貰える様(職員がトイレに行ったり)している。支援に入れる方は本人のパターンで声を掛け支援している。	排泄自立の利用者へは、プライバシーを尊重して自立した排泄を支援している。利用者の尊厳を重視し、排泄の失敗に対してもさりげなく対応することにより、プライドを傷つけない配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をし野菜や、水分摂取に心がけているが、それでも見られないときには主治医に相談し薬を処方して貰う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおよそ順番が決まっている。お風呂の拒否をされる方は機会を見計らって他の職員が再度声を掛けたりしている。	ホーム側で決めた日課表に従って、利用者は順番に入浴を行っている。日にもよるが(職員配置の都合によって)、希望があれば、夜間(食後)入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、温度調節には気を遣っている。また好きな時間に自由に休息してもらっているし、様子見等し気持ちを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームドクターから説明を受け、また薬剤師にもよく相談にのってもらっている。特に新しく処方された薬については家族の方にも電話で相談、了解のうえ服用するよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の日々の暮らしの中で今までの利用者の歴史を知り、歌、絵画、裁縫、園芸等で活力・才能を発揮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	住宅街なので真夏、真冬の散歩は難しい面もあるが、車にての外出で支援している。また一人で外出される利用者を安全に行かれるよう行き支援している。	毎日近所の喫茶店へ歩いて出かけることを日課としている利用者があり、継続的に支援をしている。また、馴染みのスーパーへ単独外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん、家族と話し合い、利用者さんの希望日に希望の金額を所持してもらっている。所持管理が出来ない利用者さんについては職員が買い物の見守りし、支払いはご本人でしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話をしている。手紙は1ヶ月に1回は書いてもらっている。また手紙が書けない利用者については職員が代筆、様子を書くなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については利便性の追求(利用者の希望)である殺風景なシンプルさがある。が、窓のカーテン等リサイクル布地で利用者の手作りである。ガラスも防音ガラスを使用。	共用空間は2階に集中しており、利用者は思い思いに団欒を楽しんでいる。利用者の希望もあり、特に室内装飾等は行っていない。幹線道路に面してはいるが、不快な騒音・振動の侵入は感じない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの配置に気を配り、居間においても独りになれるし利用者同士の歓談もできる。自由で楽しい憩いの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は日照を考えた配置になっている。御家族の方のご厚意により使い慣れた家具を持って見え、自分の好み、使い勝手が良いよう工夫されている。まさしく、自分の城とされている。毎日配置換えをしている利用者もいる。	自宅から馴染みの家具や道具を持ち込み、自分の物に囲まれた生活を送っている事例がある。趣味の品を部屋に飾りつけていたのが、印象的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の人が他の方と仲良く生活できるよう家具配置、トイレの大きさにも配慮、一人ひとりが自立した生活が送れるよう工夫している。		